



球磨村森電力の紹介

中嶋崇史 博士(工学)

株式会社球磨村森電力 代表取締役
株式会社リクロスエクスパンション 代表取締役
球磨村復興推進アドバイザー
一般社団熊本環境革新支援センター 理事
環境省 脱炭素まちづくりアドバイザー

プロフィール



2013年4月、早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科に博士(工学)の学位を取得。2011年から3年間務めた早稲田大学研究室ベンチャー企業の株式会社早稲田環境研究所の代表取締役を経て、2014年4月に株式会社リクロスエクспанションを設立。2024年6月には(株)ワコム(東証プライム上場、証券コード6727)の社外取締役に就任。

2013年から6年間務めた早稲田大学環境総合研究センター客員次席研究員の経験を活かし、エネルギー・リサイクル分野のビジネスプロデュースを得意とする。

2018年には球磨村との連携協定に基づき地域新電力会社として「球磨村森電力(クマムラシンデンリョク)」を設立し、事業の担い手へと事業範囲を拡大する。2022年には環境省「脱炭素先行地域」に選定される。球磨村では復興推進アドバイザーとして地域循環共生圏のb視点から再生可能エネルギーを活用した地域活性化を推進する。

また、2023年には熊本県あさぎり町において「(株)あさぎりエネジー」を設立し、環境省「脱炭素先行地域(第3回)」に選定される。さらに、同年には熊本県五木村において「(株)五木源エナジー」、2024年に福岡県北九州市において「(株)九州てっぺんエナジー」を設立し、2025年には福岡県直方市において「(株)のおがたエナジー」、島根県雲南市において「(株)うんなん共創エネルギー」を設立し、地域共創型事業の横展開を推進する。地域共創型事業の横展開については、環境省脱炭素まちづくりアドバイザーとして全国の自治体の支援や委員活動にも従事している。

地域エネルギー事業は課題解決の手段

地域エネルギー事業
の成長



まちづくりへの貢献

地域脱炭素事業を進めて行く上で重要なこと

共通軸

共通の価値が想像される

事業に関与しない場合、お金という意味では何ら得られるものはないが、共通の共感軸が何かは見出すことができ、それが結果として事業に繋がってくる(自ら事業を創り出すということも含めて)。

俯瞰

立場を捨てて、本質を見ようとする

「この地域にとっての課題はなんなのか」、「解決するためには何が必要なのか」、「この地域はどういう方向に行った方がいいのか」などを「自分の立場を一度捨て」、「俯瞰的かつ客観的に見る」という視点が大事。その上で、自分の役割がそこにあるかを考えればよい。結果として役割がなければ、応援する立場になればよい。事業に関与する立場になるのであれば、仲間に応援してもらえばよい。



熱量

誰かが初めに火を灯す

事業であるからには「熱量」を持つことが大前提である。誰か1人最初に熱量を込めてやり切るといった意思を持った人間がいること、これが出発点。

成功体験

信じられると感じてもらう

計画は1人でできても、事業は1人で広げることにはできない。「この事業がうまくいくはずである」と思ってもらえる「成功体験の積み上げ」が必要である。

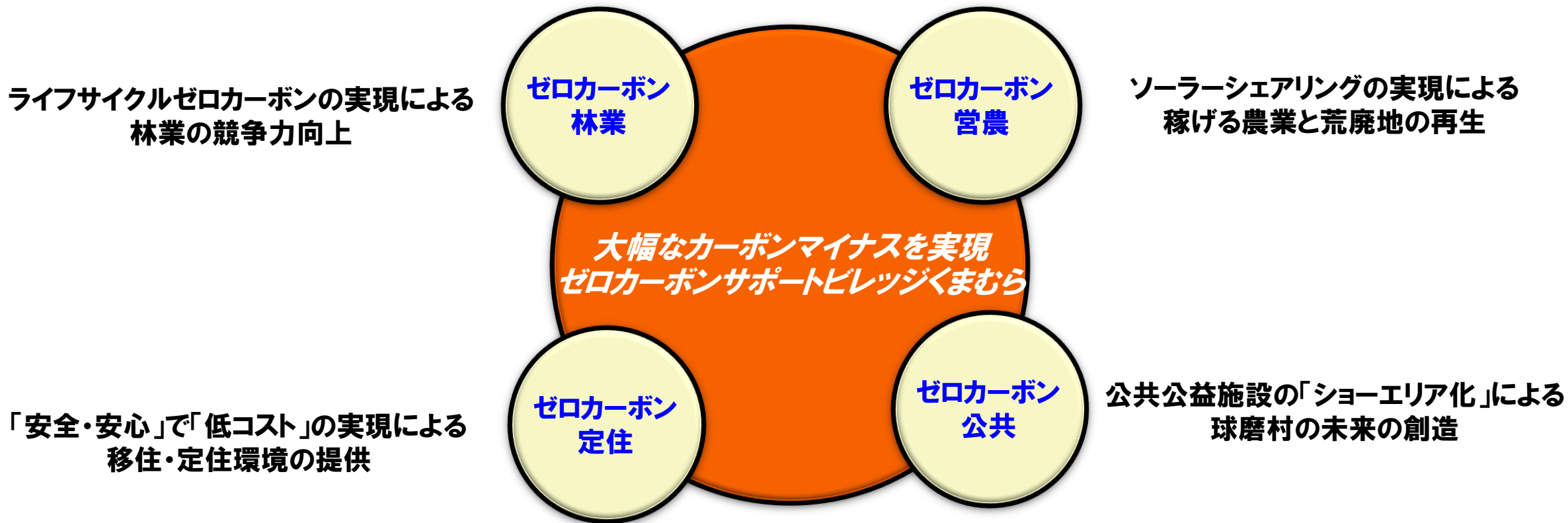
事業協力

応援したいを思ってもらう

成功体験の積み上げの結果として、灯した火が広がり、仲間が広がり、事業への協力者が増える。これにより、市場が拡大していく。

脱炭素先行地域の取組みで目指していること

- 2050年までに、最大の産業である「**林業**」、被災により村外に出た村民を含めた「**定住**」、集落等のコミュニティ維持・生活基盤の1つである「**営農**」、教育・医療・その他住民サービスである「**公共**」という4セクターにおいて、再エネ導入を中心にゼロカーボンを実現する。
- 本村の88%を占める森林資源を最大限に生かした「CO2の森林吸収」を武器に、球磨村が大幅なカーボンマイナスを実現し、都市部や大手民間企業のゼロカーボンをバックアップする「ゼロカーボンサポートビレッジくまむら」を目指す。



「地域脱炭素×地域貢献」の事例

事例1

村の基金への拠出

球磨村との協定に基づき、球磨電の収益の一部を球磨村の施設整備等に活用する基金に拠出

持続可能なむらづくりの実現へ

株式会社森電力と協定

地域資源の有効活用等を中心としたむらづくりに関する協定式が4月10日、球磨村コミュニティセンター清流館で行われました。

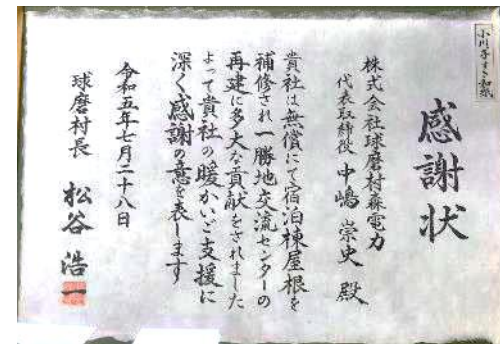
協定締結相手方の株式会社球磨村森電力は、会社設立から1年ほどで、小売電気事業者として登録され、4月から村内の事業所への電力供給を開始しています。

中嶋崇史代表取締役は、「将来、村内で作られた再生可能エネルギーを村内で消費する仕組みづくりを探求することで、球磨村の活性化につながれば」と話しました。

事例2

かわせみ屋根の無償修理

豪雨災害からの復旧・復興支援の一環として、温浴施設屋根の老朽化に伴う補修工事を太陽光発電設備の整備と合わせて無償で実施



事例3

新規契約者向け「エコチェンジ商品券」の配布

村内の再エネ活用及び域内資金循環を目的として、電力供給を新規契約いただいた方に「森電力エコチェンジ商品券」を配布（商工会と連携）



事例4

保育園へのおもちゃの寄贈

電力供給先である合志市の社会福祉法人で制作された木のおもちゃをこがね保育園に贈呈



「地域脱炭素×地域貢献」の事例

事例5

さんがうらの棚田オーナー

球磨村森電力の関連会社と連携し、球磨村の棚田米を福利厚生の一環として配布



事例6

まつりへの協賛

2023年さんがうら夏祭りに協賛(5万円)



事例7

環境学習による学習機会の提供

村内の再エネ活用及び域内資金循環を目的として、電力供給を新規契約いただいた方に「森電力エコチェンジ商品券」を配布(商工会と連携)



事例8

「みんなの家」の電気料金無償化

復興と相まって整備される「みんなの家」の電気料金を無償化するとともに、太陽光発電設備と蓄電池を設置し、災害時の電力を提供



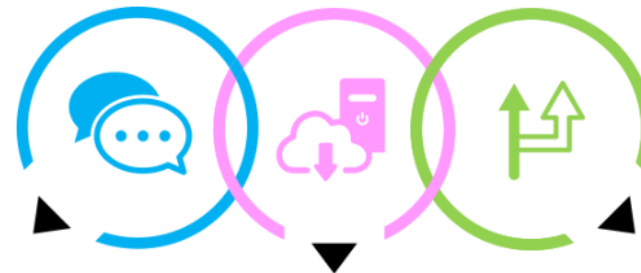
グループ企業の相関

親会社

株式会社リクロスエクスパンション (スピンオフ事業)

2014年設立。環境・エネルギー事業のコンサルティング事業、クラウドソリューションを中心としたITシステム事業、事業を通じて社会課題を解決するスピンオフ事業を展開。売上高は10億円を超え、官公庁や大企業に対してサービスを提供。

主な取引先(株)NTTデータ先端技術、三井不動産(株)、(株)野村総合研究所、(株)カクヤス、(株)シーエーシー、(株)ローソン、(株)NTT-ME、環境省、熊本県球磨村、島根県雲南市、北海道更別村など多数。



コンサルティング 事業

エネルギー・リサイクル分野を中心
としたビジネスプロデュース

ITシステム 事業

クラウドソリューションを中心とし
たプロフェッショナルサービス

スピンオフ 事業

ITシステム事業・コンサルティング
事業から派生した社会貢献型事業

子会社 (小売電気事業者)

(株)球磨村森電力 (小売電気事業者)

2018年設立。地域共創型電力事業の先駆け。第1回脱炭素先行地域事業の担い手。

(株)あさぎりエナジー (取次業者)

2023年設立。あさぎり町内の事業者との合併。第3回脱炭素先行地域事業の担い手。

(株)五木源電力 (取次業者)

2023年設立。先行地域事業に依存しない事業を展開。

(株)九州てっぺんエナジー

2024年設立。北九州市事業スキーム向けのオンサイトPPA事業会社

(株)のおがたエナジー (取次業者)

2025年設立。脱炭素先行地域をきっかけとした地域共創型電力事業会社。

(株)うなん創生エネルギー (取次業者)

2025年設立。雲南市等との協定をきっかけとした地域共創型電力事業会社。雲南市が5%出資予定。

雲南市、シグマクス、NTT-ME、リクロスエクスパンション、おっちラボ、「共創による雲南市の脱炭素・再生可能エネルギーの推進に関する連携協定」の流れで設立に至ったため、REXの子会社として設立

(参考)球磨村の紹介MOVIE

【脱炭素先行地域】球磨村の新たな挑戦 (<https://www.youtube.com/watch?v=xLBCZ5rqgKA>)

企画製作 球磨村役場復興推進課

CHALLENGE OF KUMA VILLAGE



(参考)球磨村での主な歩み

2012

球磨村森林組合に木質バイオマスのエネルギー利用についてヒアリングで訪問

- 「エネルギー利用は重要だが、木を燃やすために育てているわけではない」という何気ない一言をもらい、毎月、球磨村森林組合に通うことに

2013

「地域主導型再生可能エネルギー事業化検討委託業務」として環境省から予算獲得

- 林業の市場変化に対応していくため、木材乾燥設備を想定した木質バイオマスのエネルギー利用に関する事業化検討を実施

2014

「地域における草の根活動支援事業」として環境省から予算獲得

- 人材育成や観光事業の活性化という課題を踏まえ、球泉洞で森林をテーマにした子ども向け環境学習など観光事業と連携した取組を実施

2016

球磨村森林組合が木質バイオマスボイラーを導入

- 2013年の事業化検討を踏まえ、木質バイオマスボイラー設備の比較検討などを支援し、木質バイオマスボイラーの導入を実現

2018

「地方公共団体カーボン・マネジメント強化事業」として環境省から予算獲得

- 村の温暖化対策計画策定の支援を実施

2019

「地方と連携した地球温暖化対策活動推進事業クールチョイス」として環境省から予算獲得

- 村内の小学校、中学校を訪問し、環境教育を実施

補助金に依存しないで地域
活動を続けるための手段

2021

「球磨村におけるCO2削減と災害時の電力確保」の観点から、オンサイトPPAによる太陽光発電設備の整備を開始

- 田舎の体験交流館さんがうら、こがね保育園にPPAによる太陽光発電の導入(自立型パワコンにより停電時の電力を取り出すことが可能)

2022

「環境省脱炭素先行地域(第1回)」に選定され、地域の課題解決に繋がる再エネ導入の整備を開始

- 「脱炭素×創造的復興」による ゼロカーボンビレッジ創出事業として、球磨村・球磨村森林組合とともに活動



(参考)球磨村での事業の歩みから考える共感軸の作られ方

